



牛

牛津高校校長

横

多久市長

丸

新春

×

特別対談

尾

和

俊

人

彦

牛丸和人

牛津高校校長。多久町在住。
佐賀美術協会会員。1982・1992佐賀県展知事賞、
1989筑後美術展最優秀賞などの受賞歴をもつ。

横尾俊彦

多久市長。北多久町在住。
全国ICT教育首長協議会会長。
政府の「未来の学びコンソーシアム」委員。

市長…私としては、ICTは

「アイ・クリエイティブ・トゥモロー」
なんです。僕もあなたも未
来をつくる。パソコンはその
ための道具のひとつ。その一方
で、やはり、機械だけでなく
人の力が大切なので、郷土を
味わったり、触れ合う体験を
多久学や論語カルタを活用し
て心の力を広げています。そ
の中でも、芸術は疲れた時に
ホッとさせてくれ、人の人生
にも大事だと思います。

牛丸…アートというと難しく
考えがちですが、もっと身近
に楽しんでもらいたいですね。
富永ボンドさんは、いろんな
ハンデを持った人たちがアート
と疎遠だった人たちのところ
に行つて、扱いやすく、誰
もが近づきやすいボンドアー
トで呼び込んでいる。すごい
と思いますね。

地域の人も先生になる

市長…コミュニケーションと
は、スキルを活かして仕事を
していた人に学校に来ていた
だけ「こういう仕事があつて
面白いんだよ」と教える面も
あると思います。先日、西溪
校で県内の造園業界のトップ
の方が「こけだまづくり」を指
導されたのですが、みなさん
いい表情で子どもたちに教え
ておられる訳です。他分野も
できると思ふのです。ベテラン
のスキルや心意気を、孫の世
代に伝えるイメージです。

牛丸…すごくいいと思います。
指導要領でも「心豊かに生き
抜く力を育てる」と目標があ
ります。それなら、心豊かに
生き抜いてる人を見せること
も大切です。教師も親も子ど
もの前で、やりがいや「辛い
けどがんばって仕事をしてい